

萱本の人形様送り

いつの頃から始まったのか定かではありませんが、かつて萱本には「人形様送り」という民俗行事がありました。毎年2月4日に行われていたこの行事では、子どもたちが当番の家に集まり、大人に手伝ってもらいながら藁人形を作っていました。半紙に怖い顔を書いて顔の部分に張り付け、頭には鬘^{まげ}を付け、腰に木で作った刀を差します。そして人形様が出来上がると、鉦^{しょう}を叩いて「人形様の送りだ〜」と掛け声を村中に響かせながら村外れまでお送りし、村の入口のサデ（稲架）の上に結わい付けて他村から悪人や悪疫が入って来ないよう監視・退治する魔除けの神として祀^{まつ}っていました。しかし、この行事は昭和32年を最後に一度途絶えてしまいました。

それから約30年後の昭和63年、県立博物館の企画展「境の神・風の神：境に立つ神々―村人共同の祈りの姿」が行われました。このとき、企画展のためにと依頼され、人形様作りを覚えていた古老にお願いして作成した人形様が博物館で展示・保管されました。10年後の平成10年、萱本自治区では地区住民の総意で「萱本ふるさとおこし実行委員会」を組織しました。県立博物館に保管してあった人形様の調査を行い、人形様を復元し、全戸総出で人形様送りを再現しました。昔は1体だけでしたが、復元時からは2体作成するようにし、サデもこの行事のために集会所敷地と端村樋ノ口の入口に作成して人形様を結わえています。この人形様は翌年の歳のお焚き上げし、2月にまた新しい人形様を作っています。同委員会では今も引き続きふるさとの文化財や年中行事の継承などを続けており、人形様送りは今年の2月で復活から21回目を数えました。



↑地区住民が人形様を送る様子



↑サデ（稲架）に結わえた人形様



磐越自動車道

お詫びと訂正

3月号11ページの「ベトナムにはない雪国文化を体験」で、ベトナム大使館のグエン・スアン・ティエン参事官・投資促進部長が町長室を訪れたのは、2月20日ではなく10日の誤りでした。お詫びして訂正します。

編集後記

まだまだあちこちに残る雪が目立ちますが、日中の日差しはだんだんと暖かくなってきました。春の足音が聞こえてくるようで、何だか胸が躍りますね。キャンプや釣りに山登りなど、あれがしたい、これがしたい（もちろん写真は撮りながら）といった妄想が膨らむ季節です。だいたいはその半分も達成できずに冬を迎えるのですが、今年こそは趣味の時間を充実させたいと考えています。まずは桜の撮影から。今年はどうな風に撮ろうかなあ。

いつの間にか写真が趣味に 長谷川 祐一